

江戸天下祭中止に対する区職労書記長コメント

2009年6月9日

千代田区職労

書記長 小林秀治

千代田区が平成15年から続けてきた江戸天下祭は、21年度に中止となることが明らかになった。

石川区長は、6月区議会の召集挨拶で、次のように江戸天下祭中止の表明を行った。

「これまでの3回にわたる江戸天下祭の実施により、地域内はもとより、世代間を超えた広範な交流が芽生え、近年、希薄になりつつある地域コミュニティの再構築に寄与したものと考えております。さらには、地方都市との交流を通じて、都心千代田が地方との共生によって、相互に支えあっていくことの重要性を新たに認識する機会になったことなど、一定の成果を得ることができたと捉えております。

一方、区民や関係者から開催頻度、場所、地域の負担などについてのご意見が寄せられていることも事実であります。また、先の第一回区議会定例会の中でも論議がなされたところであります。(中略)

その結果、今般の社会経済情勢が大変厳しいことを踏まえ、秋には様々な行事も予定されていることから、総合的に勘案し、本年秋に予定している江戸天下祭は、関係者のご理解を得たうえで中止とすべきと判断いたしました。」

21年度予算では、江戸天下祭に2億円の支出が予定されていた。その予算を執行しないことを決断したのは極めて異例のことである。

区職労は、千代田区には、神田祭や山王まつりなど伝統的な祭が盛大に伝わっており、官製による祭は必要ない、無駄使いであるとこれまで指摘してきた。

また、官製の祭は長続きしない、税金の使い方を変えることが重要であるとも指摘してきた。

一方、住民からは、無駄使いであり、町会や区民などの負担があるとの指摘もされてきた。

今回、区長が区民や区職労などの意見に耳を傾けたことは、遅きに失したとはいえ、評価するものである。

区職労は、江戸天下祭以外にも保育園の民営化等の方針の見直しを求めている。今回のような区民や職員の立場に立った見直し措置をもっと広げることを大いに期待するものである。以上。